年間授業計画　新様式例

高等学校 令和7年度（１学年用） 教科　　保健　　科目 保健

教　科：　保健　　科　目：　保健　　単位数：　1　単位

対象学年組：第　１学年　１組～　７組

教科担当者：（１組：中澤鞠江）　（２組：川瀬剛）　（３組：川瀬剛）（４組：羽石南）（５組：三井田達人 ６組：三井田達人（７組：川瀬剛）

使用教科書：（ 現代高等保健体育「（50　大修館　保体701）」　　）

教科　保健　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】個人および社会生活における健康・安全について理解を深められるようになる

【思考力、判断力、表現力等】健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考・判断できるようになる

【学びに向かう力、人間性等】生涯を通じて自らの健康を適切に管理し，改善していく資質や能力を身につける。

科目　保健　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代社会と健康，安全な社会生活について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解するとともに，心肺蘇生法等を実施できる。	現代社会と健康について，自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	現代社会と健康について，主体的にねばり強く学習に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	生徒が様々な健康観や健康についての定義があることを知り、現代社会が抱える健康課題についての理解を深められるようになる。	・健康の成り立ちと考え方 ・私たちの健康のすがた	・健康は、様々な要因の影響を受けながら成り立ち、時代とともに健康課題が変化していることを理解している。 ・現代社会と健康について課題や概念を思考し表現している。 ・学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	具体的な生活習慣病と日常の生活行動の関係性についての理解を深め、その予防のための生活習慣を見直すことができるようになる。	・生活習慣病の予防と回復	・健康の保持増進と生活習慣病の予防と回復には運動・食事・休養の調和の取れた実践が必要なことを理解している。 ・現代社会と健康について課題や概念を思考し表現している。 ・学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	様々ながんの種類と原因についての調べ学習を通し、予防のための生活習慣について理解できるようになる。また、がんの治療についての基本的な知識を理解できるようになる。	・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復	・がん発生のメカニズムと生活習慣のかかわりについて理解している。 ・現代社会と健康について課題や概念を思考し表現している。 ・学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
2学期	生徒が自身の運動習慣を振り返り、自分自身のライフプランに合わせた運動計画を作成できるようになる。また、スマートフォンの使用について見直し、良質な睡眠時間の確保の仕方について理解できるようになる。	・運動と健康 ・食事と健康 ・休養睡眠と健康	・健康の保持増進と病気予防と回復には運動・食事・休養の調和の取れた実践が必要なことを理解している。 ・現代社会と健康について課題や概念を思考し表現している。 ・学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	喫煙と飲酒による健康影響について理解し、その予防のための個人的な対策および社会への対策について考えられるようになる。	・喫煙と健康 ・飲酒と健康	・喫煙と飲酒が生活習慣病の発生に大きく関わっていること理解している。 ・現代社会と健康について課題や概念を思考し表現している。 ・学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	事例を通して薬物乱用に危険性と社会的影響について理解できるようになる。自身の経験をもとに、自分なりのストレス対策について考えられるようになる。	・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴	・薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えるため、絶対に行ってはいけないこと理解している。 ・現代社会と健康について課題や概念を思考し表現している。 ・学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
3学期	現代の感染症の特徴と感染症の3観点についての理解を深められるようになる。また、性感染症について、啓発活動の観点から考えられるようになる。	・現代の感染症 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択	・感染症の発生や流行には時代や地域差があることまた、予防には個人および社会的な対策が必要なことを理解している。 ・現代社会と健康について課題や概念を思考し表現している。 ・学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	交通事故は、人・車両・環境の要因が関割っていることを具体的な事例を通して理解し、日常の事故に対する危険を予測できるようになる。	・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成	・交通事故の防止には、人・車両・環境など様々な要因があることを理解している。 ・安全に関する予測や回避の方法を考え表現している。 ・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	日常的に起こりやすいけがについて、応急手当の意義と手順を理解し、実践できるようにする。また、実習班と観察班に分け実習形式で心肺蘇生法の方法や手順を学び、その理解について相互評価できるようになる。	・応急手当の意義とその基本 ・心肺蘇生法	・応急手当には正しい手順や方法があることを理解し、心肺蘇生法などを正しく行う技能を身に着けている。。 ・安全に関する予測や回避の方法を考え表現している。 ・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	定期考査			○	○		
							合計 32